



アメリカの航空宇宙局（NASA）でアポロ計画や
スペースシャトルの研究に多額の研究費がつぎこまれ、
おならの研究と腸内細菌の研究が急速に進歩した。

宇宙食はおならの生産効率が高く、乗務員もストレスのために
おなかをこわすことが多くおならが増加した。
おならには水素とメタンガスが含まれるため爆発の危険性があった。
酸素がない宇宙は腸内環境と似ており、その中で暮らすためには
腸内細菌の研究が必要であった。